

外来診療担当表

診療科	受付	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
内科	午前 8:45 ~ 11:30	牛木 隆志 秋山 琢洋	佐藤 良一	竹森 繁	埴 晴雄 糖尿病の治療 大澤 妙子 第1、第3、第5 木	埴 晴雄
	午後 13:45 ~ 15:45	(急患のみ) 竹森 繁 (要相談)	(急患のみ) 佐藤 良一 (要相談)	(急患のみ) 竹森 繁 (要相談)	佐藤 良一	(急患のみ) 竹森 繁 (要相談)
脳神経内科	午前 予約制	小池 亮子	もの忘れ診療 今村 徹 (再来のみ)	大津 裕	もの忘れ診療 今村 徹 (新患のみ)	
整形外科	午前 8:45 ~ 11:30	山本 智章 菊池 達哉 受付8:30~	大森 豪 富山 泰行	伊藤 惣一郎 菊池 達哉	山本 智章 渡部 和敏 受付8:30~	菊池 達哉 富山 泰行
	午後 15:30 ~ 17:30	スポーツ傷害治療 (膝・足) 大森 豪		受付14:30~ 第3水 スポーツ傷害治療 (肩) 望月 友晴		スポーツ傷害治療 (全般) 第1、3、5 菊池 達哉
		スポーツ傷害治療 (全般) 富山 泰行		慢性腰痛・せぼねの変 形の治療 渡邊 慶 第4火 予約制		スポーツ傷害治療 (全般) 山本 智章
リハビリテーション科	午前 予約制	眞田 菜緒	小股 整	眞田 菜緒	崎村 陽子	崎村 陽子
歯科 歯科口 腔外科	午前 予約制	今井 信行	今井 信行	佐藤 尚子	今井 信行	今井 信行
	午後 予約制	今井 信行	今井 信行	佐藤 尚子	今井 信行	今井 信行

ご予約
お問い合わせ

予約センター TEL.025-388-2116
 歯科予約 TEL.025-388-2124
 医療相談 TEL.025-388-2120

発行 広報誌
歩み

発行日 2021年6月4日
 発行者 新潟リハビリテーション病院
 院長 山本 智章

所在地 新潟県新潟市北区木崎761番地
 TEL (025) 388-2111
 FAX (025) 388-3010
 URL <http://www.niigata-reha.jp/> ホームページ



広報誌

歩み

2021
JUNE

6月

着任の ご挨拶

脳神経内科 医師 小池 亮子

専門分野

パーキンソン病、神経難病、脳神経内科一般



脳神経内科は脳や脊髄、末梢神経や筋肉の病気をみる内科です。これらの病気の症状としては、頭痛、めまい、体のしびれ、力が弱くなった、歩きにくい、ふらつく、手足がつっぱる、ひきつけ、むせる、しゃべりにくい、ものが二重に見える、手足がふるえる、ものわすれ、意識障害など、たくさんあります。このような症状が出た場合にはまず、全身をみる事が出来る神経内科で、体のどこの病気であるかを見極めることが大切です。脳神経内科でどのような病気か診断し、他科での治療や検査が必要な場合、たとえば骨や関節の病気が原因なら整形外科に、手術などが必要なときは脳神経外科に、精神的なものは精神科などへご紹介いたします。

診療することが多い病気としては、脳梗塞、認知症、パーキンソン病、片頭痛、てんかんなどがありますが、高齢人口の増加に伴い、認知症や脳梗塞、パーキンソン病患者さんは年々増加しています。その他にも脳や脊髄、神経、筋肉の炎症や免疫の異常に基づく疾患や、糖尿病や甲状腺の病気、がんなどの合併症として脳神経の症状をきたすこともありますし、神経系の難病や筋ジストロフィーなども診療しています。

脳神経内科はどのような科なのかわかりにくい、といわれることがあります。特に間違えられやすいのが精神科、心療内科などです。精神科は、おもに気分の変化(うつ病や躁病)、精神的な問題を扱う科です。また心療内科は精神的な問題がもとで体に異常をきたすような病気を扱う科です。脳神経内科はこれらの科とは異なり、脳や脊髄、神経、筋肉に病気があり、体が不自由になる病気を扱います。



外来では、詳しい神経系の診察に加え、血液検査やCT、MRI検査、脳波、神経伝導速度検査などを行い、症状の元になっている病気の場所や性質を確認します。また、症状の始まりの様子やその後の経過、以前にかかった病気、生活習慣や環境なども詳しく教えていただき総合的に診断します。



急性期の脳梗塞や脳炎など、高度な医療体制で治療を行う必要がある場合には、規模の大きな病院での治療が必要となります。当院は外来診療とリハビリテーションが主になりますので、疾患の診断後、適切な投薬やリハビリテーションを行い、症状の改善に努めてまいります。

※ 外来診療は予約制となりますので予約センター(裏面参照)へお問い合わせください。

着任のご挨拶

リハビリテーション科 医師 眞田 菜緒

今年4月より新潟リハビリテーション病院に入職しリハビリテーション科に勤務しております眞田菜緒と申します。

リハビリテーションは、整形外科疾患、脳神経系疾患のみならず、内科系、外科系、すべての分野に関わる領域です。

機能を再獲得するという意味を持つリハビリテーションですが、障害が残ると、生活するために介護が必要になったり、仕事ができなくなってしまったりすることがあります。急性期病院では多くの疾患を抱える患者様や重症な患者様も多く、効果的にリハビリを行うことが困難で、今までの生活と大きく変化し、自分らしい生活が送れなくなってしまったことを悲観される方を、多く見てまいりました。その反面、全く動けない状況から身体を起こしていただけるようになったことを共に喜んだり、少しの変化でも満足を得られるのだということも知りました。

病気にかかる前の状態に戻すのがなかなか困難中でも、様々な職種のスタッフが連携して一人の患者様に向きあい、患者様自身が納得できる範囲で少しでも自分らしい生き方に復帰できるよう支援を行うこともリハビリの役目だと考えております。入院された患者様に対しては納得のいく社会復帰を、外来の患者様に対しては納得のいく社会参加を継続できるよう支援を継続していきたくて思っております。今後ともよろしくお願ひいたします。



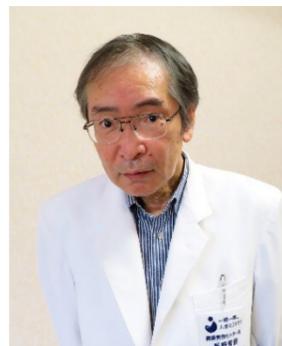
健康管理センター 医師 長野 智展

当センターで行っている健康診断について、そもそもの健康診断の意義について説明したいと思います。

まず第一はがんを早期に発見できることです。それまで健康診断を受けていなくて見つかった時はすでに末期がんで余命わずかというケースも少なくありません。大腸がん、前立腺がん、乳がん、胃がんなどが早期発見できる良い例です。

健康診断の目的は自覚症状のない病気の早期発見にあります。いわゆる生活習慣病、糖尿病、高血圧、脂質異常症、痛風などの早期発見です。中でも自覚症状がなくて最も怖いのが糖尿病です。糖尿病は自覚症状が全くありませんので、健康診断を受けない限り、発見することは出来ません。

糖尿病を気づかないまま放って置くと失明したり、人工透析になったり、壊疽になったりなど重症化することがしばしばあります。自覚症状のない生活習慣病の予防、早期発見のために年に1回は健康診断を受けることをお勧め致します。自覚症状のない病気やがんを早期に発見できて健康診断を受けて良かったと思って頂ければと思います。



ご紹介が
遅くなりました
ました



昨年4月に着任

整形外科 医師 富山 泰行



整形外科は分野が多く分かれているのが特徴です。私自身、専門は膝、肩、足部、スポーツ分野、骨折などの一般外傷で、専門分野の手術を行なっています。しかし、整形外科は手術だけをやっていくわけではなく外来診療もあり、四肢全般、脊椎系、骨粗鬆症、リウマチ、神経系疾患などにも対応し、投薬、リハビリテーションなどの治療を行なっています。またその年齢層にも幅があり、小児から高齢者まで幅広く、年齢の違いによっても疾患の種類も変化します。

高齢の方の多くは、関節や腱、靭帯の変性を伴う疾患があります。加齢による変化が主なもので、負荷や関節炎を契機に痛みが増加し、症状が改善せずに来院されるケースが多くあります。基本は外来での保存療法が選択されます。痛みの原因となっているものが何か、最初の頃の痛みと場所や性質が変わってきいていないか、丁寧に診察することで、肩や膝が痛いという状態から、肩・膝のこの部分が痛いといったことがわかってきます。レントゲン画像やCT、MRIだけでは変性疾患は痛みの箇所を判別することが難しい場合もあり、診察所見、画像所見、エコー、採血データなども使って確認していきます。そうすることで、痛みの原因を詳しく分析することができ、必要な投薬、リハビリテーションを行うことで治療します。この時点でほとんどの方の症状が改善し、手術を免れることができますが、一部には症状が改善しない患者さんもおられます。そういった場合に必要な症例には手術加療を行なっています。

当院では膝の人工関節には県内初のロボット支援手術を行い、膝と肩と足では関節鏡を用いた小侵襲の手術も行っています。術後のリハビリテーションもしっかり行い、術後ケアが充実したサポート体制を敷いています。

患者さんに寄り添って、適切な医療の提供を目指していきたくて思っています。

NEWS & TOPICS

赤外線誘導式人工膝関節手術支援ロボットの導入



図1：手術支援ロボット
(コンピューターユニットとハンドピース型ロボット)



図2：コンピューター画面に患者様の骨の形状と靭帯の状態を表示させ、最適な手術計画を立案

当院では、膝痛の患者様が多く受診されており、最近では高齢者の変形性膝関節症で手術を受ける方が増えています。そこで昨年末から、赤外線誘導式手術支援ロボット NAVIOTM (Smith & Nephew社製) を導入して人工膝関節置換術を行っています。

手術支援ロボットの活用は、より正確な手術手技を可能にして手術の合併症リスクを減らすとともに耐用年数の延長など患者様にとっても大きなメリットをもたらす可能性が考えられます。

どのような手術で使うの？

変形性膝関節症、関節リウマチなどに対する人工膝関節置換術で使用します。

